

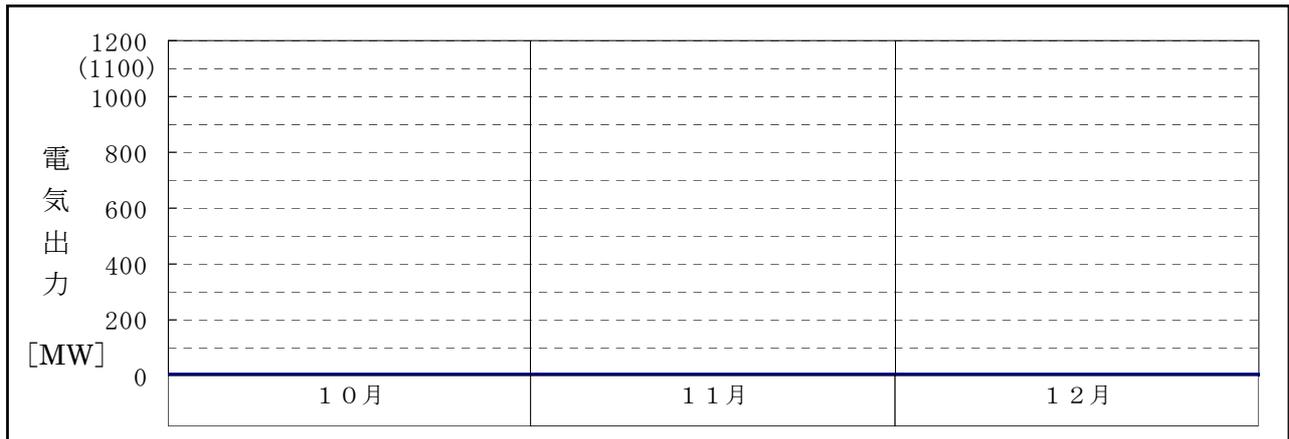
平成30年 2月 6日
東北電力株式会社

東通原子力発電所の現在の状況について

1. 運転状況

- 平成23年2月6日より第4回定期検査を実施中

2. 電気出力（平成29年10月～平成29年12月）



3. その他

(1) 当社原子力発電所における燃料集合体ウォータ・ロッドの曲がりに係る点検結果について（最終報告）

- 当社は、燃料集合体ウォータ・ロッド^{※1}の曲がりに係る原子力規制委員会からの指示文書に基づき、東通原子力発電所1号機（以下、「東通1号機」という。）の燃料集合体について点検を実施し、その結果を取りまとめ、平成29年12月15日に原子力規制委員会へ最終報告しました。
- 今回の東通1号機における点検では、チャンネルボックス^{※2}を脱着した履歴のある燃料集合体30体のうち、今後原子炉内に装荷を予定している7体全ての外観点検を実施し、ウォータ・ロッドの曲がりを含む、損傷や変形等の異常がないことを確認しております。

※1 燃料集合体の中央部に燃料棒と並行して設けられている中空の管で、内部に冷却材（水）を通すことにより燃料集合体内部の出力の最適化を図るもの。

※2 燃料集合体を覆っている四角い筒状のもので、燃料集合体内の冷却材流路を確保するとともに、制御棒のガイド等の機能を持つ。

（別紙1） 燃料集合体ウォータ・ロッド概略図（9×9燃料の例）

(2) 東通原子力発電所1号機における新規規制基準適合性審査の状況について

- 東通1号機については、申請以降、継続的な事務局ヒアリングや審査会合において当社の申請内容を説明してきており、これまでに審査会合は13回開催されております。
- 当社では、昨年の5月から8月にかけて、f-1断層やm-a断層の活動性評価に関するデータの更なる拡充を目的に、トレンチ掘削等の追加調査を実施しており、この結果を踏まえ、先般（昨年9月8日および10月13日）の審査会合では、f-1断層やm-a断層は「将来活動する可能性のある断層等に該当しない」ことを改めて説明しております。
- これに対し、原子力規制委員会から、f-1断層については、断層の形成過程などに関する資料の充実を、m-a断層については、これまでの調査で得られたデータの再整理による資料の説明性向上を求められております。
- 昨年11月17日には、現地調査により、f-1断層およびm-a断層等の追加調査結果を直接ご確認いただきました。
- 当社としては、現地調査における指摘事項なども踏まえ、説明資料を整理・充実させ、今後の審査会合で当社の評価について説明を尽くしてまいります。

詳細については、当社ホームページから確認することができます。

(<http://www.tohoku-epco.co.jp>)

燃料集合体ウォーター・ロッド概略図 (9×9燃料の例)

